

境界知能の児童の学習支援と情緒障害のある児童に関する調査

この度は調査へのご協力ありがとうございます。

- この調査は、「(A) 境界知能の児童の学習困難の実態と支援」「(B) 情緒障害のある児童の実態と支援」について調べることを目的としたものです。
- 調査対象者は、小学 6 年生の担任（通常級・通級）の先生です。
- 正しい答え・間違った答えなどはございませんので、思った通りにお答えください。
- 本調査は統計処理をするので個人が特定・公表されることは一切ありません。また、結果につきましても、学術的な目的以外に使用いたしません。
- それぞれの質問をよく読み、該当する番号に○、または空欄に必要事項を記入してお答え下さい。ご回答もれのないようお願いいたします。

東京学芸大学・橋本創一

【フェイスシート】ご回答される先生についてお答えください。

(1)勤務年数（あてはまるものに○） ※講師歴を含みます。また、学校種は問いません。

例) R5 年 4 月から勤務の場合→2 年目

1 年目 ・ 2～5 年目 ・ 6～10 年目 ・ 11～15 年目 ・ 16 年以上

(2)特別支援教育の担当経験（どちらかに○、および下線部に記入）

ある →（通級__年 特別支援学級__年 特別支援学校__年）

ない →（特別支援学校教員免許状の有無 あり ・ なし ）

調査 (A) 境界知能の児童の学習支援に関する質問

本研究における境界知能とは、『IQ70～85 程で、知的発達の遅れは目立たないが同年齢の健常児に比して学力等に遅れがある者』を指します。

【境界知能についての理解に関する質問】ご回答される先生についてお答えください。

① 境界知能という言葉や意味について（最も近いもの 1 つに○）

知っていた ・ 少し知っていた ・ ほとんど知らなかった ・ 全く知らなかった

② 境界知能について学習する機会について（どちらかに○） ある ・ ない

<ある場合>どこで学びましたか。（あてはまるものすべてに○）

研修* ・ 書籍やメディア ・ その他（ ）

※研修（講演会/セミナーを含む）の場合（あてはまるものすべてに○）

自治体や学校等が主催している ・ 自主的に参加している

その他（ ）

③ 境界知能について、「学習したい」または「学習する必要がある」と思いますか。（最も近いもの 1 つに○）

とてもそう思う ・ 少しそう思う ・ どちらでもない ・ あまり思わない ・ 全く思わない

【境界知能の児童に関する質問】

以下の質問では、担任されているクラスに在籍する境界知能またはその疑いのある（学習の遅れが気になる）児童（以下、対象児Aさん）を1名想定してお答えください。

現在、該当する児童がいない場合は、過去に担当した児童（高学年）でも構いません。

(1)対象児（境界知能・その疑いの児童Aさん）が在籍するクラスについて

- ①学級全体の在籍児童数 () 人
障害の診断がついている児童数 () 人
診断はないが障害が疑われる児童数 () 人

②支援員（※学生ボランティア等を含む）の配置（どちらかに○） あり ・ なし

<ありの場合>週 () 時間程度

指導・支援の中心（最も近いものに○） 対象児 ・ その他の児童 ・ 対象児+特定の児童 ・ 学級全体

(2)対象児の学年 () 年生

(3)対象児のIQについて（どちらかに○）

検査によって明らかである・ 正確なIQは不明である（境界知能が疑われる）

⇒IQ*の数値 ()

※WISC の場合は FSIQ、田中ビネー・その他の検査の場合はIQとして記載されている数値を記入してください。

(4)対象児の医学的診断（どちらかに○） あり ・ なし

<ありの場合>あてはまるものすべてに○（重複回答）をしてください。

LD・ADHD・自閉スペクトラム症・知的障害・難聴・弱視・言語障害・その他 ()

(6)通級の利用状況（あてはまるものに○） あり ・ なし

種別： 自閉症/情緒 ・ 言語 ・ 難聴 ・ 弱視 ・ その他 ()

利用頻度： 週 () 時間程度

(7)塾・通信教育等の利用状況（あてはまるものに○） あり ・ なし ・ 不明

【対象児の学習面に関する質問】

I. 国語について

話す・聞く

(1) 対象児の学習レベル（達成度）についてあてはまるものに○印をつけて下さい。

- ①暦年齢相当 ②1学年遅れ ③2学年遅れ ④3学年以上の遅れ ⑤暦年齢より上の学年
⑥その他 []

(2) 以下の各項目について、対象児への支援の程度としてあてはまる記号を記入してください。

【記号一覧】

◎…常に支援（全般的な支援）を必要とする。

例)
毎回の授業で、難易度や形式を変更した教材・ICT 機器を使用するなどの配慮（教材等の配慮）が必要である。
 全体指導（指示）のほかに、個別に（1 から）説明する必要がある。
毎回の授業で机間指導・個別支援が必要であり、専属の支援員をつける必要がある。

○…半分程度の支援を必要とする。

例)
半分程度の授業で、教材等の配慮が必要である。
 全体指導（指示）の後、声かけ・確認が2回に1度程は必要であることが多い。
半分程度の授業で机間指導・個別支援が必要であるが、担任のみでも十分に授業に取り組むことができる。

△…ときどき支援を必要とする。

例)
 教材等の配慮が必要な場合もあるが、頻度は少ない。
 全体指導（指示）の理解は曖昧なこともあるが、友達に聞く・家庭学習など自分で解決できる。
 机間指導・個別支援が必要な場合もあるが、頻度は少ない。

×…支援の必要は無い。

未…未習である。

※項目に複数の学習内容（例：外来語やことわざを理解する）が含まれる場合は、総合的に判断してください。

項目	記入欄 ◎○△×未
例：手を挙げて発表する。	△
場面・相手に応じた口調（言葉遣い）や声量で話す。	
教科書などを音読する。	
ある事柄について、説明の順序（時系列）や話の組立て方などを意識し、分かりやすく話す。	
互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合う。	
話し手の意図や話の中心に気を付けて聞き、質問や感想を述べる。	
話の内容を聞き取り、情報の要点をメモする。	

(3) 「話す・聞く」の領域において、実践している指導（支援）方法を具体的に教えてください。

読む

(1) 対象児の学習レベル（達成度）についてあてはまるものに○印をつけて下さい。

- ①暦年齢相当 ②1学年遅れ ③2学年遅れ ④3学年以上の遅れ ⑤暦年齢より上の学年
⑥その他〔 〕

(2) 以下の各項目について、対象児への**支援の程度**としてあてはまる記号を記入してください。

※項目に複数の学習内容（例：外来語やことわざを理解する）が含まれる場合は、総合的に判断してください。

項目	記入欄 ◎○△×未
例：手を挙げて発表する。	△
文章を黙読する。	
既習の漢字を正しく読む。	
ことわざや慣用句、故事成語の意味を理解しながら文章を読む。	
文章の中心となる語や文を捉える。	
登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える。	
詩を読んで印象的な表現を捉えたり、伝わってくる情景を想像したりしながら読む。	
文章の内容を的確に押さえて要旨を捉えたり、事実と感想、意見などとの関係を理解する。	

(3) 「読む」の領域において、実践している指導（支援）方法を具体的に教えてください。

書く

(1) 対象児の学習レベル（達成度）についてあてはまるものに○印をつけて下さい。

- ①暦年齢相当 ②1学年遅れ ③2学年遅れ ④3学年以上の遅れ ⑤暦年齢より上の学年
⑥その他〔 〕

(2) 以下の各項目について、対象児への**支援の程度**としてあてはまる記号を記入してください。

※項目に複数の学習内容（例：外来語やことわざを理解する）が含まれる場合は、総合的に判断してください。

項目	記入欄 ◎○△×未
例：手を挙げて発表する。	△
枠やマスの中に適切な文字の大きさと書く。	
既習の漢字を使って文を書く。	
文法的な誤り（助詞の使い方など）をしないで文を書く。	
黒板や教科書の文字を視写する。	
句読点〔、。〕や括弧（）、改行を適切に用いて、読みやすい文章を書く。	
話し言葉と書き言葉の違いを理解し、適切に使い分ける。	

読み手に伝えたい思いや考えが明確になるように、ふさわしい言葉を選んで文章を書く。	
起承転結など、話の展開を意識した文章を書く。	

(3)「書く」の領域において、実践している指導（支援）方法を具体的に教えてください。

II. 算数について

数と計算

(1) 対象児の学習レベル（達成度）についてあてはまるものに○印をつけて下さい。

- ①暦年齢相当 ②1学年遅れ ③2学年遅れ ④3学年以上の遅れ ⑤暦年齢より上の学年
⑥その他〔 〕

(2) 以下の各項目について、対象児への支援の程度としてあてはまる記号を記入してください。

※項目に複数の学習内容（例：かけ算やわり算を理解する）が含まれる場合は、総合的に判断してください。

項目	記入欄 ◎○△×未
例：手を挙げて発表する。	△
数の概念を理解する。	
整数の計算問題を解く。	
繰り上がり・繰り下がりのある計算をする。	
筆算を使って計算する。	
九九を暗唱する。	
分数・小数の意味や表し方を理解し、図や数直線などを用いて大きさを表す。	
小数や分数の計算問題を解く。	
文章題を解く（立式する）。	
計算法則（交換法則・結合法則・分配法則など）を理解し、計算する。	

(3)「数と計算」の授業において、実践している指導（支援）方法を具体的に教えてください。

量と測定

(1) 対象児の学習レベル（達成度）についてあてはまるものに○印をつけて下さい。

- ①暦年齢相当 ②1学年遅れ ③2学年遅れ ④3学年以上の遅れ ⑤暦年齢より上の学年
⑥その他〔 〕

(2) 以下の各項目について、対象児への支援の程度としてあてはまる記号を記入してください。

※項目に複数の学習内容（例：比例や反比例を理解する）が含まれる場合は、総合的に判断してください。

項目	記入欄 ◎○△×未
例：手を挙げて発表する。	△
長さ・重さの単位と測定の意味を理解し、計器を使って測定する。	
時計を正しく読む。	
角の大きさを測定したり、作図する。	
面積の単位と測定の意味を理解し、計算によって面積（正方形・長方形）を求める。	
公式を使って、三角形・平行四辺形・ひし形・台形の面積を求める。	
円の面積を求める。	
体積の単位と測定の意味を理解し、計算（公式）によって体積を求める。	
単位量当たりの大きさを理解する。	
長さ・時間・速さの関係を理解し、速さを求める。	
異種の二つの量の割合として捉えられる数量の比べ方や表し方を理解する。	
測定値の平均を求める	

(3) 「量と測定」の授業において、実践している指導（支援）方法を具体的に教えてください。

図形

(1) 対象児の学習レベル（達成度）についてあてはまるものに○印をつけて下さい。

- ①暦年齢相当 ②1学年遅れ ③2学年遅れ ④3学年以上の遅れ ⑤暦年齢より上の学年
⑥その他〔 〕

(2) 以下の各項目について、対象児への支援の程度としてあてはまる記号を記入してください。

※項目に複数の学習内容（例：合同や対称を理解する）が含まれる場合は、総合的に判断してください。

項目	記入欄 ◎○△×未
例：手を挙げて発表する。	△
平面図形の特徴や性質を理解する。	
定規やコンパスなどの器具を適切に使用し、平面図形（三角形・四角形・円）を描く。	
平行・垂直を理解し、平面図形（平行四辺形・ひし形・台形）を作図する。	
円を使って正多角形を作図する。	
内角の和を理解し、角の大きさを求める。	
円周率を用いて、円周や直径を求める。	
立体図形の特徴や性質を理解し、分類する。	
立体図形の見取図や展開図を描く。	
図形の合同を理解し、作図する。	
縮図・拡大図・対称な図形を理解し、作図する。	

(3) 「図形」の授業において、実践している指導（支援）方法を具体的に教えてください。

--

数量関係

(1) 対象児の学習レベル（達成度）についてあてはまるものに○印をつけて下さい。

- ① 暦年齢相当 ② 1 学年遅れ ③ 2 学年遅れ ④ 3 学年以上の遅れ ⑤ 暦年齢より上の学年
 ⑥ その他 []

(2) 以下の各項目について、対象児への**支援の程度**としてあてはまる記号を記入してください。

※項目に複数の学習内容（例：グラフや表を理解する）が含まれる場合は、総合的に判断してください。

項目	記入欄
	◎○△×未
例：手を挙げて発表する。	△
簡単な表やグラフの読み取り方・表し方を理解する。	
折れ線グラフの読み取り方・表し方を理解する。	
円グラフの読み取り方・表し方を理解する。	
資料の平均や散らばりを理解し、度数分布を表す表やグラフをかいたり読み取ったりする。	
文字（□・△・x・y）を用いて立式したり、文字に数を当てはめて調べたりする。	
四則の混合した式や（ ）を用いた式について理解し、正しく計算する。	
伴って変わる二つの数量の関係（比例・反比例）を理解する。	
百分率を理解する。	

(3) 「数量関係」の授業において、実践している指導（支援）方法を具体的に教えてください。

--

調査 A の質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

調査 (B) 情緒障害のある児童に関する質問

【情緒障害のイメージに関する質問】

情緒障害とは医学的な診断名ではなく、明確な診断基準がなく症状から情緒障害と判断されるケースが多いです。情緒障害の症状は発達障害、知的障害、精神疾患にみられる症状と類似ものも多いといわれています。その背景を踏まえ、先生のお考えで構いませんので、以下の質問にお答えください。

①「情緒障害」と聞くと、どのような状態を指す言葉か明確にイメージができますか。(最も近いもの1つに○)

明確にイメージできない ・ あまりイメージできない ・ 何となくイメージできる ・ 明確にイメージできる

☆「明確にイメージできない」「あまりイメージできない」場合、その理由をご記入ください。

☆「何となくイメージできる」「明確にイメージできる」場合、先生のイメージする情緒障害の状態像について具体的にご記入ください。

②情緒障害とその他の障害(発達障害、知的障害、精神疾患)にはイメージとして違いがあると思いますか。

(最も近いもの1つに○)

全く違う ・ 似ているがやや違う ・ ほぼ同じ ・ 同じ

☆「全く違う」「似ているがやや違う」と回答された方に質問です。

情緒障害とその他の障害(発達障害、知的障害、精神疾患)にはどのようにイメージに違いがあると思いますか。

③ これまでの回答を踏まえ、現在、担任するクラスで情緒障害だと感じる児童は何人いますか？

()人

【情緒障害のある児童に関する質問】

本研究における情緒障害を『周囲の環境から受けるストレスによって生じたストレス反応として、状況に合わない心身の状態が持続し、それらを自分の意思ではコントロールできないことが継続している状態がある者(発達障害がある場合もあれば、必ずしも障害とは限らない)』と定義します。

以下の質問では、現在担任するクラス、または過去に担任した通常の学級にいた情緒障害のある児童生徒のうち、特に印象に残っている者 1名 (以下、対象児) を選んで、対象児について回答してください。

(1)対象児のプロフィール

①対象児の学年 ()年生 ※あてはまるものに○→ 現在のクラス ・ 過去に担任したクラス

②対象児の性別 (あてはまるものに○) 男 ・ 女 ・ その他

③対象児の医学的診断（どちらかに○） あり ・ なし

<ありの場合> あてはまるものすべてに○をしてください。重複の場合、主たる障害を二重に囲んでください。

知的障害 ・ 自閉スペクトラム症 ・ ADHD ・ LD ・ 弱視 ・ 難聴 ・ 肢体不自由（名称： ）
精神疾患（名称： ） ・ 身体疾患（名称： ）

④服薬の有無（あてはまるものに○） あり ・ なし ・ 不明

(2)対象児の様子について

①学校での生活において、対象児の最も気になる行動や問題を 1つ選んで番号に○をしてください。

1. 場面かん黙	10. 過度に他人に甘える
2. 不登校・登校しぶり	11. 身体愁訴（腹痛、頭痛など）の訴え
3. 過度の不安	12. 拒食
4. 抑うつ症状	13. 強迫行動（何度も手を洗うなど）
5. 無気力	14. 抜毛・性器いじり
6. 自傷行為	15. 被害妄想の主張
7. かんしゃく・怒りの頻発	16. ゲーム依存
8. 暴力・身体的な攻撃行動	17. 排尿の失敗
9. 言葉による反抗・暴言	18. その他（ ）

☆上記で回答した症状が引き起こされる要因（原因）にはどのようなものがあると考えていますか。あてはまるものすべてに○をしてください。

1. 家庭環境の不安定さ	6. 教師との人間関係の問題
2. 知的障害や発達障害などの障害特性	7. 授業中の学習活動になじまない
3. 学校の環境	8. 学年・学校の行事（イベントなど）
4. 生活習慣の乱れ	9. 部活動
5. 児童同士の間人間関係の問題	10. 習い事・塾

☆上記で回答した要因（原因）について具体的な内容を教えてください。

（例：①→虐待の疑いがあり、不適切な養育がストレスとなり症状を生じさせている可能性がある。）

② ①で選択した“最も気になる症状”について、学校生活での様々な場面における症状の強さと症状が生じる頻度をお答えください。強さ（上段）と頻度（下段）、それぞれ最もあてはまるもの1つに○をしてください。

登校時	とても強い ・ 強い ・ それほど強くない ・ 強くない
	非常に生じる ・ やや生じる ・ 時々生じる ・ 全く生じない
授業中全般	とても強い ・ 強い ・ それほど強くない ・ 強くない
	非常に生じる ・ やや生じる ・ 時々生じる ・ 全く生じない
対象児が苦手な科目の授業	とても強い ・ 強い ・ それほど強くない ・ 強くない
	非常に生じる ・ やや生じる ・ 時々生じる ・ 全く生じない
特定の科目の授業中	とても強い ・ 強い ・ それほど強くない ・ 強くない
	非常に生じる ・ やや生じる ・ 時々生じる ・ 全く生じない
休み時間	とても強い ・ 強い ・ それほど強くない ・ 強くない
	非常に生じる ・ やや生じる ・ 時々生じる ・ 全く生じない
給食の時間	とても強い ・ 強い ・ それほど強くない ・ 強くない
	非常に生じる ・ やや生じる ・ 時々生じる ・ 全く生じない
集会などの集団活動時	とても強い ・ 強い ・ それほど強くない ・ 強くない
	非常に生じる ・ やや生じる ・ 時々生じる ・ 全く生じない
運動会などの行事	とても強い ・ 強い ・ それほど強くない ・ 強くない
	非常に生じる ・ やや生じる ・ 時々生じる ・ 全く生じない
下校時	とても強い ・ 強い ・ それほど強くない ・ 強くない
	非常に生じる ・ やや生じる ・ 時々生じる ・ 全く生じない
放課後の活動	とても強い ・ 強い ・ それほど強くない ・ 強くない
	非常に生じる ・ やや生じる ・ 時々生じる ・ 全く生じない

(3)対象児の支援ニーズ及び支援方法について

① (2)①で回答した“最も気になる症状”が、学校生活において対象児にどのような課題（支援ニーズ）をもたらしていると思いますか。あてはまるものすべてに○をしてください。

1. 日々の学習の遅れが生じている	7. 生活リズムが整わない
2. 学校の活動について意欲が低下している	8. 身の自立ができない
3. 集団活動を行うことが出来ない	9. ルールを守ることが出来ない
4. 他者と安定した対人関係が築けない	10. 非行といった深刻な問題を生じさせている
5. 主体的なコミュニケーションをとることが出来ない	11. 自己肯定感の低下
6. 学校内で孤立している	12. その他（ ）

②対象児の抱える支援ニーズについて日ごろどのような支援を行っていますか？

③これまでの支援のなかで、効果のあった*支援方法と、その支援によって児童の様子がどのように変わったのか教えてください。(※気になる症状を改善させたり、緩和させたりすることができた支援)

(4)情緒障害のある児童生徒の支援の困難さについて

対象児への支援全般に関して、ご回答される先生のご考えをお答えください。

①対象児の情緒障害の症状を理解して、適切に支援することに対する「困難さ」はどの程度ですか。最も近いものに○をしてください。

全く困難ではない ・ それほど困難ではない ・ どちらともいえない ・ やや困難である ・ 非常に困難である

②対象児への支援に対する「不安感」はどの程度ありますか。最も近いものに○をしてください。

全く不安はない ・ それほど不安はない ・ どちらともいえない ・ やや不安である ・ 非常に不安である

③情緒障害のある児童の支援に対して困難さや不安がある場合、本児童の支援において困難さや不安感を生じさせる要因にはどのようなものがありますか。あてはまるものすべてに○をしてください。

1. 他の児童の支援との両立ができない	6. 支援の効果がなかなか見られない
2. 支援方法が分からない	7. 専門家と連携が取れない
3. 支援するための時間的、物理的余裕がない	8. 児童について相談する相手がいない
4. 保護者と連携ができない	9. 情緒障害が曖昧な概念で実態がつかめない
5. 情緒障害児を支援するための環境が整っていない	10. その他 ()

④情緒障害児の支援について、どのようなサポートがあれば、困難感や不安感が減ると思いますか。

(例：専門家とつながる機会がもっと欲しい)

調査 B の質問は以上です。ご協力ありがとうございました。